

[論 文]

## 中国語授業における音声による宿題提出の効果と課題 —「中国語検定試験」過去問の成績と学生アンケートの結果から—

Effects and problems of submitting homework by voice data in Chinese class:  
Based on the results of Chinese Language Proficiency Test and the results of student questionnaires

許 挺傑  
Tingjie Xu

キーワード：中国語教育、音声宿題、中検、アンケート、スマートフォンアプリ

### 1. 研究の背景と目的

中国語教育において、学習者の学習成果は、授業内における学習活動のみならず、授業外で行う宿題を通じての学習も大きな影響を及ぼしていると考えられる。

中国語授業の宿題に関して、新出単語の漢字とピンインを書き写す宿題、文法問題を解く宿題や、作文を作成する宿題等、目的に応じて、様々な形があると思われる。しかし、スマートフォンアプリを使っての音声による宿題提出に関しては、上記のような宿題提出と違って、まだ一般的でないように思える。

本研究は、筆者の担当した2018年度前期の授業「検定中国語演習」において実践した、音声による宿題提出について、その形式での宿題提出を行う理由や、効果と課題などについて述べる。

### 2. 「検定中国語演習」について

この節では、まず「検定中国語演習」という授業について簡単に説明しておく。この授業は、大分県立芸術文化短期大学・国際総合学科の専門科目（必修・選択）で、前期のみ開講しており、主に国際総合学科の2年生が受講している。今年度は16名の学生が履修登録しているが、欠席等の関係で、最終的に14名の学生が期末試験を受け、単位を取得している。

これらの学生は、中国語に関しては、1年次において、全学共通科目の「中国語 I a（前期）」、「中国語 I b（後期）」を履修済みである。また、1年次後期開講の国際総合学科の専門科目である「中国語コミュニケーション」を受講している学生も多い。

授業の目的は、中国語検定試験<sup>1</sup>準4級・4級合格のために必要な力を身につけさせることである。具体的には検定試験の過去問を活用し、出題傾向を詳細に分析すると同時に、試験に向けて中国語の知識を再度体系化し、既習事項の補強と未習事項の学習を行う。

このように、この授業の特色は、実際に行われた中国語検定試験の過去問を解く事で、実践力を付けていくことである。以下では、2018年度前期に行った「検定中国語演習」の授業スケジュールを示す（表1）。

【表1】2018年度「検定中国語演習」授業スケジュール

日付と授業	内容
4月16日 ①	・ガイダンス ・中検準4級「第89回」過去問を解く・解説
4月23日 ②	・宿題：中検準4級「第90回」過去問を解く ・授業で解説
5月07日 ③	・宿題：中検4級「第89回」過去問（筆記）を解く ・授業で筆記部分について解説
5月14日 ④	・宿題：中検4級「第90回」過去問（筆記）を解く ・授業で筆記部分について解説
5月21日 ⑤	・宿題：実検 <sup>2</sup> 第10回、5級・準4級・4級の過去問（筆記）を解く ・授業で上記の内容について解説
5月28日 ⑥	・宿題：中検4級「第91回」過去問（筆記）を解く →答案と解説を配布し、授業外で自主学習 ・授業では、実検第10回の5級・準4級・4級過去問のリスニングを行い、解説を行った
6月04日 ⑦	・宿題：中検4級「第92回」過去問（筆記）を解く →答案と解説を配布し、授業外で自主学習 ・授業では、実検第10回の5級・準4級・4級の過去問の未解説部分について解説を行った

<sup>1</sup> 中国語検定試験（以下「中検」）とは、一般財団法人日本中国語検定協会が主催・実施しているものである。主に日本語を母語とする中国語学習者を対象としているという点が大きな特徴である。詳細は以下のHPを参照されたい(<http://www.chuken.gr.jp/>)。

<sup>2</sup> 実検とは、実用中国語技能検定試験のことである。一般財団法人アジア国際交流奨学財団が主催・実施しているものである。この試験は、中国語検定試験と比べ、比較的規模は小さいものの、受験者数が一定数を超えていれば、筆者の勤務校・大分県立芸術文化短期大学でも試験を実施することが可能となっているのが特徴である。そのため、ここ数年は、毎回この試験を利用している。なお、試験の詳細は以下のHPを参照されたい(<https://www.chuken.org/>)。一方、中国語検定試験は、6年分の試験の過去問と答案を無料でHPにて公開しているため、授業では、この中国語検定試験の過去問を利用している。両検定試験は、実施団体や規模こそ異なるものの、難易度や内容は似通っている部分もあるため、授業の実施において、特に不具合なことはない。

6月11日 ⑧	・宿題：中検4級「第93回」過去問（筆記）を解く ・授業中で筆記部分の解説や、週末試験の説明を行った
6月17日 ⑨	実用中国語検定・大分県立芸術文化短期大学にて実施
6月18日	休講
6月25日 ⑩	・中検4級「第93回」のリスニング試験を実施し、その場で解説 ・宿題：93回のリスニング内容を音読し、音声データを提出する
7月02日 ⑪	・中検4級「第92回」のリスニング試験を実施し、その場で解説 ・宿題：92回のリスニング内容を音読し、音声データを提出する
7月09日 ⑫	・中検4級「第91回」のリスニング試験を実施し、その場で解説 ・宿題：91回のリスニング内容を音読し、音声データを提出する
7月18日 ⑬ (月曜振替)	・中検4級「第90回」のリスニング試験を実施し、その場で解説 ・宿題：90回のリスニング内容を音読し、音声データを提出する
7月23日 ⑭	・中検4級「第89回」のリスニング試験を実施し、その場で解説 ・宿題：89回のリスニング内容を音読し、音声データを提出する
7月30日 ⑮	・中検4級「第88回」を使い、模擬試験と答え合わせ

表1を見ると分かるように、過去問のリスニング問題を実際に解いたのち、問題と答えを音読し、その音声データを提出する宿題は、授業の後半6月25日（10回目）からである。それまでは、過去問の筆記部分に焦点を当て、問題を解く課題と授業での解説を中心に授業を進めてきた。

この研究では、音声による宿題提出の効果と課題について述べるものであるが、そもそもそれを始めた理由は次のようなものがある。

一つに、中検4級のリスニング問題の内容やそこで扱われる文法形式・単語等は、受講生にとって、非常に良い勉強の素材になると判断したことがあげられる。実際、リスニング問題の会話や文章等、この授業と並行して開講している中国語Ⅱaで使用中の教科書「中国語はじめの一歩（第8課～）」より少し難しい面はあるものの、中国語Ⅱaで扱わない文法項目や単語、話題なども多く出現する。そのため、この部分について、単なる問題を解くための試験問題としてではなく、通常の教科書の「会話文」のような位置づけにし、それを朗読し、暗唱とまではいかななくても、ある程度流暢に読めるようにすることによって、より高い教育効果が得られると考えた。

二つ目は、中国語の聴解能力を高めるためには、多くのリスニング問題を解く（いわゆるインプット）ことが重要であることは言うまでもないが、目標言語の単語や文章を正しい音声でアウトプットする、いわゆる音読の作業も極めて重要であると考えからである。リスニング問題をただ聞くためのものとしてではなく、音読することによって、口や耳の両方が同時に鍛えられるため、一石二鳥の効果が期待できると考えた。詳細は第3節、第4節で述べるが、このことは、実際の過去問の点数やアンケートの回答からも確認できる。

最後に、音声による宿題提出はどのように行われていたかについて述べる。

音声による宿題提出は、主にスマートフォンアプリであるLINEや、多くのスマートフォンに標準装備されているボイスレコーダーや写真アプリを使って行った。

学生には、音声による宿題を提出する前に、対象のリスニング問題について事前に何回か音読するように指示し、ある程度満足できる段階に来たら、ボイスレコーダーを使って、音読内容を録音させる。次に、録音したものをLINEで担当教員に送信する<sup>3</sup>。教員は、学生の音声データをLINEでチェックしながら、対象のリスニング問題用紙を使い、採点やコメントをする。のちに、採点やコメントをした資料をスマートフォンで写真撮影し、それをLINEで学生に返却する<sup>4</sup>。指摘された点について、また音読するように指示する。このような形で、後半5回分の授業では音声による宿題の提出を実施した。

次節以降で、2018年度前期に開講した「検定中国語演習」で扱った過去問の点数とアンケート結果について述べていく。

### 3. 受講者の過去問点数と全国平均との比較

この節では、受講者が授業や宿題で使用した中検4級の過去問の平均点と、過去問が実際に試験として実施された年度の全国平均との比較を示す。

まず、表2の【筆記】の状況を概観してみよう。表2を見ると今回の授業において、回数を重ねていくに従って、クラス平均が徐々に上がっていていることが分かる。どの回においても、全国平均より低いものの、クラス平均が上がってくるにつれ、全国平均との差も少しずつ小さくなっていることが分かる。

【表2】受講者の過去問【筆記】平均点と当該年度全国平均の比較

実施日	過去問年度 (中検4級)	クラス平均 <sup>5</sup> (筆記)	全国平均 (当該年度)	全国平均との差
5月07日	89回	47.2	64.0 (60) <sup>6</sup>	-16.8
5月14日	90回	42.2	57.3 (55)	-15.1
5月28日	91回	58	70.5 (60)	-12.5
6月04日	92回	55.2	67.8 (60)	-12.6
6月11日	93回	61.3	65.9 (60)	-4.6
7月30日	88回	65.8	70.4 (60)	-4.6

<sup>3</sup> 担当教員と受講者はLINEグループを作っている。全体に向けての連絡はグループチャットで行うが、課題提出とフィードバックはLINEを通じて個別で行う。

<sup>4</sup> 紙資料の本体は授業の際に返却する。採点が終了した時点で、写真を撮り、それを学生に返却する理由は、授業開始前に採点状況を見て、しっかり復習や練習をしてほしいと考えたからである。実際に、授業で紙資料の本体をもらう前に、すでにLINEで返却された写真資料を見て、事前に練習をしていた学生が多かった。

<sup>5</sup> 学生の欠席等の関係で、回によって平均の元となる学生の総数が異なることがある。

<sup>6</sup> ( )内は当該年度の合格基準点である。基本的にどの年度においても合格基準点は当該年度の全国平均を下回っている。なお、データは「中検」HPによるものである。

全国平均より低いのは、おそらく単純に学習時間の差によるものが大きいと考えられる。例えば、「中国語検定試験」4級の認定基準について検定試験のHPでは、次のように記載している。

- ・中国語の基礎をマスター、平易な中国語を聞き、話すことができること。
- ・学習時間120～200時間。一般大学の第二外国語における第一年度履修程度。
- ・発音（ピンイン表記）及び単語の意味、常用語500～1,000による単文の日本語訳・中国語訳。

つまり、合格認定してもらうための学習時間は120時間～200時間である。一方、本学で開講している中国語授業の状況はどうであろうか（表3）。

【表3】大分県立芸術文化短期大学で開講している中国語授業と時間数

年次	前期科目（授業時間数）	後期科目（授業時間数）
1年次	①中国語Ⅰa（22.5）	②中国語Ⅰb（22.5）
		③中国語コミュニケーション（22.5）
1年次総時間：①+②+③=67.5		
2年次	④中国語Ⅱa（22.5）	⑤中国語Ⅱb（22.5）
	⑥検定中国語演習（22.5）	
2年次総時間：④+⑤+⑥=67.5		
2年間総時間：①+②+③+④+⑤+⑥=135		

表3を見ると分かるように、2年次前期開講の「検定中国語演習」を受講している学生は、1年次に開講しているすべての授業を受講した場合でも、授業時間数は67.5時間であり、認定基準の120～200には遠く及ばないのが現状である<sup>7</sup>。2年間にわたって、大学で開講しているすべての中国語授業を受講した場合（135時間）でさえ、認定基準の最低時間の120を辛うじて超えるぐらいである。

このような状況では、クラス平均が全国平均より低いのは理解できるであろう。

しかし、それでも学生の日々の努力によって、認定基準の学習時間との間に大きな差があるにもかかわらず、クラス平均が全国平均に徐々に近づいていっている。このことは学生だけでなく、教員にとっても非常に大きな励みになっている。

以上、【筆記】部分について、クラス平均と全国平均を比べたが、以下では、【聴解】について見てみよう（表4）。

<sup>7</sup> 授業外における学習の時間もあるとはいえ、やはり現状では、年間の学習時間数が少ないことは変わらないであろう。

【表 4】受講者の過去問【聴解】平均点と当該年度全国平均の比較

実施日	過去問年度 (中検 4 級)	クラス平均 (聴解)	全国平均 (当該年度)	全国平均との差
6 月 25 日	93 回	欠損 <sup>8</sup>	65.8 (60) <sup>9</sup>	欠損
7 月 02 日	92 回	欠損	70.0 (60)	欠損
7 月 09 日	91 回	欠損	71.2 (60)	欠損
7 月 18 日	90 回	欠損	58.6 (60)	欠損
7 月 23 日	89 回	欠損	62.3 (60)	欠損
7 月 30 日	88 回	66.1	62.9 (55)	+3.2

表 4 を見ると分かるように、欠損値が多いものの、7 月 30 日に中検 88 回の過去問を使った模擬試験では、【筆記】のクラス平均は 65.8 で、全国平均の 70.4 と比べると -4.6 であるが、【聴解】のクラス平均は、66.1 で、全国平均の 62.9 を下回るどころか、3.2 点ほど上回っているのである。

7 月 30 日の段階において、2 年次前期の最後ということもあり、授業時間数は、①+②+③+④+⑥=112.5 時間となり、認定基準最低ラインの 120 時間に近づいているとは言え、【筆記】部分は相変わらず全国平均に届かないのに対し、【聴解】部分は全国平均を 3.2 点ほど上回っている。欠損値が多く、また元データの数も多くないので、結果の一般化は慎重に考えるべきであるが、筆者はこの結果には、授業で実践している音声による宿題提出の影響があることは否定できないと考えている。この点については、以下の 4 節で、学生アンケートの結果から読み解くことにする。

#### 4. アンケート結果

この授業では、授業の最終回 7 月 30 日に、中検 4 級の過去問を使った模擬試験を行った後、授業の後半（6 月 25 日）から実施している音声による宿題提出について、アンケート調査を実施している。アンケート内容の詳細は、本文末尾の「資料」を参照されたい。ここでは、アンケート結果をもとに、今回の授業で実践した音声による宿題提出の効果と課題について見ていく。なお、このアンケートは 14 名の学生が答えてくれた。

では、設問ごとに見ていこう。

設問 1 は、以下のようなものである。

<sup>8</sup> データが欠損になっている理由は、単純に学生のデータを収集していなかったためである。授業の当初は、【筆記】部分、それも「文法項目」の勉強に重きを置いていたため、【聴解】は授業でリスニング問題を解き、すぐその場で問題解説を行い、成績を聞くことにとどまっていた。この分の記録をしっかりとれていないことが大きな反省点である。今後、【筆記】のみならず、【聴解】に関しても、しっかり記録をとっていきたいと考える。

<sup>9</sup> ( ) 内は当該年度の合格基準点である。第 90 回を除いて、基本的にどの年度においても合格基準点は当該年度の全国平均を下回っている。なお、データは「中検」HPによるものである。

1、音声データの課題によって、あなたが普段中国語を読む時間が長くなりましたか？

5                      4                      3                      2                      1  
強くそう思う                      どちらともいえない                      強くそう思わない

この設問に対して、「2」を選んだ学生1名を除き、13名の学生が「強くそう思う」の「5」（10名）と「4」（3名）を選んでくれた。つまり、ほとんどの学生が、この宿題によって、中国語を「読む」時間が増えたということになる。

設問2は以下の通りである。

2、音声データの課題を提出する際に、あなたは音声を聞きますか？

①聞きます。    ②時々聞きます。    ③聞きません。

これに対して、①と②がそれぞれ7名ずつであった。つまり、ほぼすべての学生が音声データの宿題を提出する前に、モデル音声を聞いていた。では、音声を聞く場合、平均で何回（もしくは何分）聞くのだろうか。これは、設問3で尋ねている。

3、音声を聞く場合、平均で何回（もしくは何分）音声を聞きますか？

設問3に対する回答は次の通りである。1回のみ6名、2回のみ1名、1～2回が2名、2～3回が1名、3～4回が1名、5分1名、30～40分1名、60分1名となっている。少ない場合でもモデル音声について1回は聞き、多い場合は、60分聞くという学生もいた。

設問4では、音声データを録音する前に、練習するかを聞いている。「①練習する」と「②時々練習する」がそれぞれ12名と2名であった。「③練習しない」学生はいなかった。

4、音声データの課題を正式に録音する前、あなたは練習しますか？

①練習します。    ②時々練習します。    ③練習しません。

では、練習を行う場合、平均で何回（もしくは何分）練習するのだろうか。それについて尋ねる設問5では、学生たちは次のように答えている。

5、練習を行う場合、平均で何回（もしくは何分）練習しますか？

1回のみ練習するが4名、2回のみ練習するが1名、1～2回が2名、2～3回が1名、3～4回が1名、5回ぐらいが1名、10回近くが1名、30～40分が1名、60分ぐらい練習するが2名であった。練習を行う際に、少ない場合は1回のみ練習するが、多い場合は、10回ぐらい、もしくは30～40分、60分ぐらい練習する学生もいた。

次の設問6では、さらに具体的にどこまで練習するかを聞いている。

6、練習を行う場合、何をどこまで練習しますか？

例：課題の内容、最初から最後まで3回ほど読みます。など

これに対して、学生は以下（原文のまま）のように答えている。

- ・ 会話や文章を2～3行ずつに分け、少しずつ練習します。わからなかった所をチェックして後から音声データを聞き直します。
- ・ 1回通してみる（休んだ場合は2回ほど）
- ・ 音声を1文ずつ聞いて、1文ずつ発声して録ります。
- ・ 課題の内容を最初から最後まで2回ほど読みます。
- ・ 課題の内容を最初から最後まで5回ほど読みます。  
(特に言えなかったり、つまずいた所)。
- ・ 聞いた後、シャドウイングなどもしてみる。
- ・ 最初から最後まで1回、特に苦手な単語。
- ・ 最初から最後まで1回通して、読みづらい所をもう1回読む。
- ・ 課題の内容を最初から最後まで2回ぐらい読む。
- ・ 前半と後半に分けて練習し、ミスなく読めるまで録り直す。
- ・ 内容、苦手な部分のみ。
- ・ 課題の内容を最初から最後まで10回ほど読みます。
- ・ 提出する部分をスムーズに読めるようになるまで(回数は場合によります)。
- ・ 最初から最後まで1回、苦手なところをもう1回。

このように、学生は苦手なところを重点的に練習したり、最初から最後まで通読したりするなど、多くの方法で練習を行っていたことが分かる。

この音声による宿題提出のもう一つのポイントは、宿題提出後、授業担当教員が学生の音声をチェックし、間違っている点についてコメントをし、コメントしたものを学生にフィードバックする点にある。

では、教員による宿題チェックの後、学生たちは、どのような反応をするのだろうか。これについてはまず以下の設問7を参照されたい。



7、教員による課題チェックをもらった後、授業後、教員のチェックと照らし合わせながら、さらに練習をしますか？

①練習します。 ②時々練習します。 ③練習しません。

設問7に対して、学生の回答は①2名、②11名、③1名となっている。また、練習を行う場合、どの程度練習するか（設問8）について尋ねたところ、以下（原文のまま）のように回答してくれた。

8、練習を行う場合、どの程度練習しますか？

例：指摘されたところを聞き直したり、何回も発音練習をしたりします。

- ・指摘されたところを聞き直します。
- ・指摘されたところを聞いて、その単語だけ練習する。
- ・指摘された点。
- ・全部読み直します。
- ・指摘されたところ。
- ・グーグル翻訳などの音声も聞き、間違っている発音の練習をする。
- ・指摘されたところを読み直す。
- ・書いてもらったピンインを見ながら音声を聞いて、2～3回練習する。
- ・苦手な単語の練習。
- ・発音練習をします。
- ・何回か発声練習をします。
- ・指摘部分を何回か声に出してみる。
- ・チェックされたところを聞き直します。

このように、教員の宿題チェックに対して、全員とまではいかないものの、ほとんどの学生は、何らかの形で再度練習をしていることが分かる。特に多いのが、指摘されたところを読み直すなどであるが、全部読み直したり、グーグル翻訳などの音声<sup>10</sup>を聞き、間違っている発音の練習をしたりするという学生もいた。

<sup>10</sup> この授業の段階では、学生の音声宿題に対して、教員が「音声を聞く」「音声を聞きながら、リスニング問題の紙に赤ペンでコメントする」「コメントを書いた資料を写真に写り、学生に送る」などの方法でフィードバックを行っていたが、指摘した箇所について、教員自らさらに正しい発音を録音することはしていない。このことは、音声による宿題提出の効果を最大限に引き出す上で一つの妨げになっていると考え、2018年度後期の授業「中国語Ⅱb」や「中国語コミュニケーション」において、音声による宿題提出を実施する際には、学生の不正確な発音一つ一つに対して、教員自ら正しい音声を録音し、コメントと教員の音声ファイル両方を同時に返すことで対応するようになっている。

この音声による宿題提出は、授業の後半から毎週行っていたが、この課題は学生の負担になっているかどうかについて、以下の設問9で確認している。

9、この課題は、あなたにとって負担になっていますか？

5	4	3	2	1
強く思う		どちらともいえない		強く思わない

これに対して、学生の回答は、「4」3名、「3」4名、「2」3名、「1」4名となっている。それほど大きな負担になっているとは言えないようである。

さらに、以下の設問10では、課題を完成するまでの時間を聞いている。

10、準備など（音声を聞く、練習を行う）も含めて、課題を完成するのに、平均でおよそ何分かかりますか？

これに対して、20～30分、30分程度など、30分以下の学生が5名、30分以上60分以下の学生が5名、60分以上の学生が4名という結果になっている。

このように、この音声による宿題を完成するのに、比較的多くの時間を使っていることが分かる。

では、この宿題を行うことで、実際に中国語学習に役に立っているか（設問11）を聞いたところ、学生たちの回答は「5」11名、「4」2名、「3」1名となっている。多くの学生は、この宿題は自分の中国語学習に役に立っていると認識していることが分かる。

11、この課題を行うことで、あなたの中国語学習に役に立っていると思いますか？

5	4	3	2	1
強く思う		どちらともいえない		強く思わない

さらに以下の設問12（複数選択可）では、役に立っている項目を選んでもらっている。

12、役に立っていると思う場合、役に立っている項目を選んでください（複数可）。

- |             |     |
|-------------|-----|
| ①発音の矯正と習得   | 14名 |
| ②単語を覚えること   | 8名  |
| ③文法を覚えること   | 1名  |
| ④フレーズを覚えること | 7名  |
| ⑤リスニング対策    | 9名  |
| ⑥その他、       | 0名  |

これを見ると分かるように、学生たちはこの宿題は「①発音の矯正と習得（14名全員）」だけでなく、「リスニング対策（9名）」「単語を覚えること（8名）」「フレーズを覚える（7名）」などの面においても、効果があると認識している。

次の設問14、15では、この音声による宿題提出を他の授業でも実施すべきか、及び理由について尋ねている。

14、この課題を他の中国語授業（中国語Ⅰa,b、Ⅱa,b、中国語コミュニケーション）などでも実施すべきだと思いますか？

5	4	3	2	1
強く思う		どちらともいえない		強く思わない

15、質問14の理由について、教えてください。

設問14に対して、「5」「4」「3」がそれぞれ5名、7名、2名であった。多くの学生がこのような宿題提出の仕方を他の授業でも実施すべきだとしている。

そして、その理由については「5」と「4」を選んだ学生（12名）は、次（原文のまま）のように述べている。

- ・これが中国語Ⅰa,bのときから習慣づけば（あまり時間をとらずにさっさと片付ける時もあったため）、（先生の負担は増えてしまいましたが、）自信が付き、期末テストや授業時にも役立ってくると思います。リスニングへの気持ちの壁も少しは低くなりそうだと感じました。
- ・中国語を話す機会などそうそうないから
- ・中国語を話すことが好きになったから
- ・中国語は書いても読めないことが多いため、読む習慣を普段からくせ付けるのはいいことだと思うからです。
- ・発音できるとリスニングにも役に立つから
- ・先生から発音のチェックをしてもらえるので、自分の悪い所を見つけやすくてよいと思うから。課題の時間は少しかかるけれど、その分、中国語にふれられるので、良いです。
- ・読んだほうが早く覚えられるから
- ・自分で発音したものを送るからリスニング音源をしっかりと聞くから
- ・自分の発音のどこが間違っているか分からないので、先生から直接ここは違うと指摘してもらえるのは発音の改善につながると思う。また、自分で読むことで、中国語を読む時間が増えた。
- ・何度も読むことで、発音が覚えられるし、耳もなれる。
- ・日常生活において、中国語に接する時間（意識し音楽を聴くなどを除けば）があまりないので、この課題は役に立った。
- ・自分で実際に発音することで、リスニングでもその単語が出てきたときにすぐ分かるようになったから

「自分の発音のどこが間違っているか分からないので、先生から直接ここは違うと指摘してもらえるのは発音の改善につながると思う。」のように、発音矯正に言及した学生がいる他、「自分で実際に発音することで、リスニングでもその単語が出てきたときにすぐ分かるようになったから」や、「・・・リスニングへの気持ちの壁も少しは低くなりそうだ」等のように、リスニング問題を解く際に役に立ったことを理由に挙げている学生もいた。さらに、「中国語を話す機会などそうそうないから」、「中国語を話すことが好きになったから」、「中国語は書けても読めないことが多いため、読む習慣を普段からくせ付けるのはいいことだと思うからです」のように、リスニングだけでなく、「話す」「読む」ことに言及した学生もいた。

設問14の結果は設問12の結果との類似点が多い。つまり、この宿題を実施することで、学生たちは、発音矯正やリスニング対策に効果があるだけでなく、それによって、中国語を意識的に読む時間が長くなり、結果的に話す練習にもなっていると認識しているようである。

では、設問14で「3」を選んだ2名の学生はどのような理由でそれを選んだのだろうか。

- ・先生も生徒も割と大変だと思います
- ・曜日やその時々に応じて、時間に余裕があるときと、ないときがあるから

この2名の学生は、この宿題は「教員も学生も負担になること」や、「曜日やその時々に応じて、時間に余裕があるときとないときがある」を理由に、他の授業ではしない方がよいと述べている。

確かにこの点は、授業担当の筆者も感じていた。特に、一人一人に対して、提出された音声を聞きながらチェックし、コメントを行ったうえ、さらに一人一人に対して、LINEを使ってフィードバックを行うという一連の作業は非常に手間がかかる。今回は16名の受講者であったが、音声による宿題に対して、通常2時間程度の時間を使ってチェックを行っている。1名の宿題に対して、平均7.5分間を使用している。さらに受講者数の多いクラス、たとえば、32名の学生のクラスの場合、1回の宿題チェックだけで4時間を必要とする計算になる。しかし、これもあくまで宿題チェックに費やす時間であり、本格的な授業準備等を考えると、やはりこの宿題を大人数のクラスで実施するのは現在の状況では難しいといわざるを得ない。

しかし、以上の学生アンケートの結果からも分かるように、宿題そのものは学生の中国語学習に大いに役に立っていると言えるだろう。そのため、今後は人数の多いクラスでも、1回の宿題の量を減らしたり、ICTの力を借りたりして、工夫を考えたいと、このような音声による宿題提出を実施してみたいと考えている。

## 5. まとめと今後の課題

本稿では、2018年度前期の「検定中国語演習」の授業で実施した音声による宿題提出についての実践報告を行った。

「検定中国語演習」という授業の概要を紹介したのち、前半【筆記】部分のクラス平均は少しずつ上昇してきてはいるものの、授業最終回で実施した模擬試験でも、クラスの平均は全国平均を上回ることにはなかった。しかし、そんな中、【聴解】の部分だけ、全国平均を大きく上回ったのである。この結果に関して、授業で実施した音声による宿題提出が関係しているのではないかと考え、学生に対してアンケート調査を行った。

アンケート調査の結果から分かるように、多くの学生は、この週に1度指示される宿題を完成するために、リスニング問題の「聞く」・「読む」・「話す」の作業に時間を費やし、その結果、「発音矯正」や「リスニング対策」だけでなく、「中国語を話す」練習にもなり、宿題を行うことを通じて、「自信がついた」「中国語を話すことを好きになった」等と、音声による宿題提出の効果を実感している。

しかし、一方で、この音声による宿題提出を他の授業（特に人数の多い授業）でも実施する場合、学生や教員の負担という点も考慮する必要があることを述べておきたい。これに関して、今後、1回の宿題の量を減らしたり、ICTの力を借りたりして、対処法についてしっかり考えていきたい。

また、【筆記】部分の点数はきちんと記録をしていたのに対し、【聴解】部分に関して、しっかり記録をしていなかった点は、大きな反省点である。研究のためだけでなく、授業改善のためにもこのようなデータの蓄積は非常に重要になってくるので、今後は学期開始前に、授業内容そのものの準備だけでなく、学生の学習進展状況に関わる学習データの収集・保存に関しても、しっかりと計画を立てておきたい。

### 【参考文献】

実用中国語技能検定試験HP

<https://www.chuken.org/>（2018年12月10日閲覧）

日本中国語検定試験HP

<http://www.chuken.gr.jp/>（2018年12月10日閲覧）

### 【資料】

#### 音声データの提出課題についてのアンケート

アンケート調査、ご協力いただき、ありがとうございます。このアンケートは授業改善活動の一環として行っております。アンケート結果は、学生の皆さんの成績に影響しません。どうぞ、忌憚のないご意見を教えてください。アンケート結果は、今後授業改善のヒントやそれに伴う研究活動のデータとして、利用させていただくことがございますので、ご了承ください。

1、音声データの課題によって、あなたが普段中国語を読む時間が長くなりましたか？

5                      4                      3                      2                      1  
強くそう思う                      どちらともいえない                      強くそう思わない

2、音声データの課題を提出する際に、あなたは音声を聞きますか？

①聞きます。 ②時々聞きます。 ③聞きません。

3、音声を聞く場合、平均で何回（もしくは何分）音声を聞きますか？

4、音声データの課題を正式に録音する前、あなたは練習しますか？

①練習します。 ②時々練習します。 ③練習しません。

5、練習を行う場合、平均で何回（もしくは何分）練習しますか？

6、練習を行う場合、何をどこまで練習しますか？

例：課題の内容、最初から最後まで3回ほど読みます。など

7、教員による課題チェックをもらった後、授業後、教員のチェックと照らし合わせながら、さらに練習をしますか？

①練習します。 ②時々練習します。 ③練習しません。

8、練習を行う場合、どの程度練習しますか？

例：指摘されたところを聞き直したり、何回も発音練習をしたりします。

9、この課題は、あなたにとって負担になっていますか？

5                      4                      3                      2                      1  
強くそう思う                      どちらともいえない                      強くそう思わない

10、準備など（音声を聞く、練習を行う）も含めて、課題を完成するのに、平均でおよそ何分かかりますか？

11、この課題を行うことで、あなたの中国語学習に役に立っていると思いますか？

5                      4                      3                      2                      1  
強くそう思う                      どちらともいえない                      強くそう思わない

12、役に立っていると思う場合、役に立っている項目を選んでください（複数可）。

- ①発音の矯正と習得
- ②単語を覚えること
- ③文法を覚えること

- ④フレーズを覚えること
- ⑤リスニング対策
- ⑥その他、

13、役に立たないと思う場合、なぜそう思うか、良ければ理由を教えてください。

14、この課題を他の中国語授業（中国語Ⅰa,b、Ⅱa,b、中国語コミュニケーション）などでも実施すべきだと思いますか？

5	4	3	2	1
強くそう思う		どちらともいえない		強くそう思わない

15、質問14の理由について、教えてください。

